

2022 年度日本農業経済学会第 1 回常務理事会 議事録

開催日時:2022 年 7 月 24 日(日)15:00~17:55

会 場:ZOOM リモート開催

出席：浅見会長，茂野総務担当副会長，齋藤編集担当副会長，伊藤企画担当副会長，矢部国際担当副会長，鈴木会長補佐常務理事，小野総務担当常務理事，河野学会賞・国内学術交流担当常務理事，秋山財務担当常務理事，関司財務(引継)担当常務理事，八木情報担当常務理事，作山和文誌編集担当常務理事，中谷英文誌担当常務理事，東山企画担当常務理事，佐々木国際担当常務理事，加治佐開催校担当常務理事，吉岡常務理事(北海道)，石塚常務理事(東北)，堀田常務理事(北陸)，増田常務理事(近畿)，山口常務理事(中国)，松岡常務理事(四国)，坂井常務理事(九州)

オブザーバー：齋藤(事務局)、諏訪(事務局)

欠席：楨平常務理事(中部)

開会ならびに議事進行確認

1. 会長挨拶

各位の業務遂行に御礼申し上げます。コロナがまた増えている、これらに逐次対応しながら学会を進めたい。本日は貴重な機会、積極的なご意見賜りたい。

2. 常務理事会メンバー及び事務局担当者の紹介 資料 2

各人より一言。

3. 今年度の主要会議,大会準備等のスケジュールについて(総務)【審議】 資料 3

2023 年 3 月 18 日(土), 19 日(日)、青山学院大学、日程が例年比前倒しになっているため留意されたい。

準備状況

7.29 アジア農業経済学会大会 HP 公開

8.29 個別報告エントリー開始(12.2 締切) 例年比前倒し

8 月下旬 日本農業経済学会大会のお知らせ HP 公開 (できる限り詳細を公開)

その後、日本農業経済学会としての大会お知らせを郵送

準備出来次第 個別報告申し込み要項 HP 公開

12 月下旬 個別報告採否決定

個別報告プログラム編成の拡大企画委員会は 2023 年 1 月上旬(7 日(土))が有力)

2.3 個別報告 full paper 提出

PC は報告者各自で準備すること

報告は日本語でも可であり、「アジア農業経済学会」で報告したとみなすが、業績一覧には「日本語で報告」の旨を記載のこと。

以降日程

第2回常務理事会 12月17日(土)13:00~15:00 リモート対応
第2回理事会 3月11日(土)13:30~15:30 リモート対応
2023年度総会 3月20日(月)~23(木) メール審議
同 質問対応 3月22日(水)16:00~17:00 リモート対応

4. 2023年度青山学院大学大会について 【報告、必要に応じて審議】

(1) 2022年度龍谷大学報告(総務) 資料 4-1

開催方式 9月に完全オンラインに決定 10月に臨時理事会で承認
但し、対面でも可能なように準備

大会運営 昨年度の経験があったため、適切な助言がありスムーズに運営できた
銀行口座の開設に難航した
支出 425,061円、残額 174,939円

総括 オンラインは通常大会と比較して負担は減
情報システムに明るいスタッフがいるかいないかが鍵
業者のサポートがあれば心強い

(2) 大会の持ち方について(企画) 資料 4-2

アジア農経大会実行委員会と日本農経企画委員会で合同会議を適宜開催

次年度大会は「第11回アジア農業経済学会東京大会」

シンポジウムをプレナリーセッション(19日 9:00~11:00)、個別報告をパラレルセッション(18日 11:00~12:30、14:30~16:00、19日 11:00~12:30、14:30~16:00)として開催、個別報告は1報告17分、質疑5分、計22分

諸会議については18日 17:30~18:30にビジネスミーティング枠を設定、利用の際は東山理事まで連絡

ポスターセッションは、オンライン実施の可能性が残るため実施せず

特別セッションは90分、パラレルセッションの時間帯で実施

日本農経会員の参加申し込みもアジア農経HPから

大会参加費は3万円、大会参加費と懇親会費は分けて領収書に記載

大会参加、懇親会不参加、は設定なし

20日のエクスカージョンについては1万円を予定

一般参加登録12月23日(金)開始

個別報告、特別セッションエントリー8月29日(月)開始、Abstract 締切12月2日(金)

Abstractは例年の1枚よりは多い分量を予定、12月下旬に採否決定

2月3日(金)full paper 締切

(3) 企画担当常務理事の追加選任と企画委員会の構成について(企画) 資料 4-3

今期(2022-2023年度)は2022年度にアジア農経学会との共催大会の準備、2023年度に100周年記念大会の準備があり、負担増が予想される
今期限りの措置として、各年企画担当常務理事として1名増員
2022年度、下川哲会員を追加(任期2023年3月31日まで)
あわせて企画委員会のメンバーを追加、委員6名、オブザーバー2名体制

(4) 青山学院大学大会の準備状況(大会開催校) 資料 4-4

日本農経、アジア農経間の意思疎通は現状スムーズに行われている
大会テーマ: Sustainable and Resilient Asian Agriculture and Food Systems in the Global World
後援・協賛等について協賛委員(東大中嶋先生)で調整(農林水産省、最終調整中)
その他、協賛について資料提示と協力要請
メイン日程は2日間
19日のプレナリセッションが日本農経でいう大会シンポジウムに相当、使用言語は英語だが、プレナリセッションは日英両方
日本農経もアジア農経と同様、ポスターセッションは実施しない
クロージングセレモニーで浅見会長から挨拶あり

(作山) 資料 4-2 はいつ配布するのか?

(東山) 現在の資料 4-2 はメモなので、これを修正した上で8月下旬に公開
担当で協議したい

(伊藤) 8月29日のアジア農経のHPをみながら、決定したい

(加治佐) 8月29日に合わせることは可能

(5) 2024、2025年度開催校について(企画) 資料 4-5

2024年度は東北大学、2025年度は日本大学または明治大学が候補、その後事情を考慮して決定

5. 各担当の業務報告について

(1) 総務

1) 総務 【報告・審議】 資料 5-1-1

倫理委員会のWGを組織、細則を定め、正副会長会で審議、2023年度常務理事会で審議
休会に関する規定がないため、これに代わるものを今後作成、但し会則には盛り込まず
内規運用扱い

休会者は、名簿登載、会費請求しない、会員資格(大会報告)は停止

幽霊会員問題はこの数年未着手、会員1000人超の学会がもつプレゼンスの維持が背景

2) 情報 【報告】 資料 5-1-2

各種作業は順調に進捗

オンライン化により財政的余裕が生じ、バックナンバーを毎年1巻(本年度は60巻)登載、費用は158,070円

過年度報告論文集は、1996～99年を掲載、但しEBSCOhostの掲載は先方が却下
過年度の座長改題及び和文学会誌賞論文サマリー(Announcement)の英文誌登載は予算動向を見ながら検討、秋に予算の推移が見通した後に予算化
学会誌賞サマリーはかつてAbstractとして掲載していたが、二重投稿の懸念から現在ではAnnouncementに変更

3) 財務 【報告】 資料 5-1-3

コロナ前は赤字体質、コロナ以降は黒字化

2021年度は127万円の黒字、但し収入は経年低下傾向、剰余金は630万
オンライン大会は支出も少ないが、収入も減少(20～30万円の減)
青山学院大学大会は次年度予算、各種手続きは進行中
会費納付率は近年86%程度で推移

4) 学会賞・国内学術交流 【報告・審議】 資料 5-1-4

選考委員を選定中、理事及び過年度受賞者から

学会賞の受賞候補者の明示及び共同研究における貢献度の明記について

個人が受賞するのか、研究が受賞するのかは昨年度の議論では結論がでず

学会賞は理事会で決定事項、総会ではなく大会中の授与も可、その場合は総会では受賞者の報告

関連学会協議会は大会前日に実施、本年度も17日が候補となるが、今後協議

日本農学会シンポジウムは、毎年テーマ出しの依頼

(2) 編集(和文誌、英文誌)

1) 和文誌編集【報告】 資料 5-2-1

近年論文は採択率低下傾向、報告論文は投稿数低下傾向

2) 英文誌編集【審議・報告】 資料 5-2-2

Articlesは昨年度投稿2、採択0、本年度は現時点までで投稿なし

Research Lettersが投稿7本

海外からの投稿掘り起こし、日本農経のプレゼンス向上のため、Research Lettersにアジア農経報告者(日本農経の非会員)が投稿可能となる措置を検討したい(アジア農経学会はofficial雑誌がないため)

・その際、投稿規程を変更するのか、解釈で運用するのか

(中谷) 編集委員会規程第6条第2項に基づいて、柔軟な対応が可能と考える

(作山) 和文誌と英文誌は規程が平行に作成されており、和文誌編集委員も含めての議論が必要

(3)国際 【報告・審議】 資料 5-3

日韓学術交流協定にもとづく国際シンポジウムは本年度も開催せず
アジア農経にこれまで通り 50 万円を拠出予定、但し予算執行については再調整
(7.25 2023 年度予算で基本的に拠出)

(4)連携 【報告】 資料 5-4

今年度は特段の行事はない

(5)その他

6. 規定類の改正について【審議】 資料 6

前回の総会での規程修正の漏れ（軽微な誤字等）があり、これを修正
関西ブロックからの総務担当常務理事の選出に関する附則の追加

7. 事業委託の状況および契約書の紹介 【報告】 資料 7

資料にもとづき確認

アワードオンラインは更新せず、2023 年度大会受付等は全てアジア農経で実施

閉会